

インドネシア - 1件

1. Katadata 紙、「Unlocking Indonesia Geothermal Potential」ウェビナーを開催

2020年8月28日

Katadata 紙は 28 日、エネルギー鉱物資源省 (ESDM) 新・再生可能エネルギー・省エネルギー総局 (EBTKE) イダ・ヌルヤティン地熱局長、インドネシア再生可能エネルギー協会スルヤ・ダルマ会長、スターエナジージオサーマル社アグス・サンディ・ウィディアント最高戦略責任者の 3 名を招待しウェビナーを開催した。ウェビナー内容は下記の通り。

i. 世界最大の地熱生産国になる可能性

エネルギー鉱物資源省は、2030 年までに 8,000 MW の地熱利用を目標



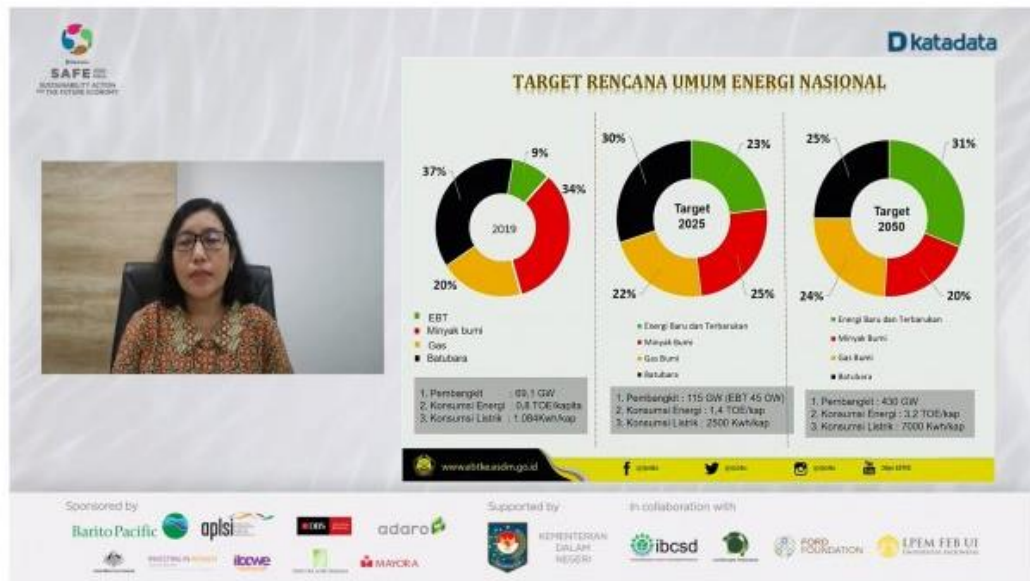
(写真右上:スルヤ・ダルマ・インドネシア再生可能エネルギー協会会長、右下:アグス・サンディ・ウィディアント最高戦略責任者、左下:イダ・ヌルヤティン地熱局長)

イダ・ヌルヤティン地熱局長はウェビナーにて、「エネルギー鉱物資源省は、インドネシアの地熱利用を 2030 年までに 8,000MW 到達させることを目標としている。インドネシアの地熱ポテンシャルは 23.9GW である。それを開発できれば世界最大の地熱生産国になれる。しかし、インドネシアの地熱資源のほとんどが保護林に分布している。保護林区域での地熱開発には規制があるため、関連機関と省庁間の協力が必須である。また、地熱開発を妨げる社会問題やライセンス問題もある。社会問題では、コミュニティの一部メンバーが、ラピンドの泥噴出事故のように掘削を失敗すると、地熱開発活動が災害を引き起こすと心配している。さらに、地熱プロジェクトの電力価格は経済性が薄いのが大きな課題である。政府は現在、地熱発電を含む再生可能エネルギー (EBT) 電力の価格を規制する大統領令 (Perpres) の草案を準備している。」と語った。

一方、インドネシア再生可能エネルギー協会スルヤ・ダルマ会長は、「そもそもインドネシアは 2020 年までに世界最大の地熱生産者になることを目標としていた。しかし実際にはインドネシアは米国に次ぐ第 2 位である。インドネシアの地熱開発の阻害要因の 1 つは、規制に一貫性がない事だ。インドネシアでは長年に亘って、計画されていたことが規制の変更により修正をしなければならないケースがある。これはインドネシアの大きな課題である。」と語った。

2025 年の国家エネルギー計画(RUEN)の地熱開発目標は 7,241.5 MW で、2025 年再生可能エネルギー(EBT)エネルギーミックスの目標である 23%と一致している。

- ii. 投資促進のため、政府は電力販売価格の差額を PLN へ支払う



(写真:イダ・ヌルヤティン地熱局長)

地熱事業への投資促進のため、大統領令で定められた地熱電力の販売価格が供給コスト(BPP)とかけ離れている場合は、PLN (PT.Perusahaan Listrik Negara)に差額分が補償される予定だとイダ・ヌルヤティン地熱局長は述べた。

投資家は、PLN への地熱電力販売価格は経済性にそぐわないため、地熱セクターへの投資は魅力的ではないと評価している。同セクター開発に対する投資家の関心を高めるため、再生可能エネルギー(EBT)電力の価格を規制する大統領令(Perpres)の草案では、エネルギー鉱物資源省は、地熱開発者から電力を購入する PLN に対し差額分の補償を提供できると提案している。

同草案は法務人権省に提出され、関係省庁と協議中。この規制では、Feed in Tariff 価格、最高ベンチマーク価格(HPT)、および契約価格の 3 つが再生可能エネルギー価格設定スキームに制定される。

- iii. スターエナジー社、127.9 GW を発電しインドネシアの 673 千戸の家を照らす



(写真:アグス・サンディ・ウィディアント最高戦略責任者)

スターエナジージオサーマル社は創業以来 127.9GW を発電し、国内の 673,000 戸へ供給してきた。

同社は現在、ワヤン・ウィンドウ (Wayang Windu)、サラック (Salak)、ダラジャット (Darajat) の 3 つの地熱鉱区を管理している。また、ハルマヘラ (Halmahera) とランプン (Lampung) にも探査段階の鉱区を保有している。同社の総発電容量は 875MW に達し、インドネシアでは最大。さらにその発電容量を拡大することを計画している。一方、掘削は地熱開発における大きな課題であることを認めた。

昨年、インドネシアの地熱利用は 2,130MW に達した。政府は 2030 年までに 8000 MW に到達することを目標としている。

- iv. 2020-2024 年、地熱鉱区と発電容量
出典: エネルギー鉱物資源省 (ESDM)

No.	鉱区名	州	発電容量 (MW)
1	グヌン・ガルングン Gunung Galunggung	西ジャワ	110
2	グヌン・チレマイ Gunung Ciremai	西ジャワ	55
3	グチ Guci	中部ジャワ	55
4	グヌン・タンポマス Gunung Tampomas	西ジャワ	45
5	グヌン・エンドウ Gunung Endut	バンテン	40
6	グヌン・パパンダヤン Gunung Papandayan	西ジャワ	40
7	グヌン・バトゥル-キンタマーニ Gunung Batur-Kintamani	バリ	40

8	ボラ・プル Bora Pulu	中部スラウェシ	40
9	バンダ・バル Banda Baru	マルク	40
10	マリタイン Maritaing	東ヌサ・トゥンガラ	30
11	ジャイロロ Jailolo	北マルク	30
12	ロコップ Lokop	アチェ	20
13	シポホロン・リア-リア Sipoholon Ria-Ria	北スマトラ	20
14	チソロック・チスカラメ Cisolok Cisukarame	西ジャワ	20
15	スンバルン Sembalun	西ヌサ・トゥンガラ	20
16	ナゲ Nage	東ヌサ・トゥンガラ	20
17	マラナ Marana	中部スラウェシ	20
18	ビトゥアン Bittuang	南スラウェシ	20
19	サジャウ Sajau	北カリマンタン	13
20	リンボン Limbong	南スラウェシ	5
		合計	683

エネルギー鉱物資源省(ESDM)は、2020-2024年に上記20の地域で地熱探査を実施する予定と発表した。開発される総発電容量は683 MWに達する。西ジャワのグヌン・ガルンゲン地熱鉱区が最大で110 MWある。

この探査は、エネルギーミックスの再生可能エネルギー地熱構成成分9%から23%に増やすことを目的としている。

(出典:8月28日付 Katadata 紙)